

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
YMCA健康福祉専門学校		昭和59年12月20日		奥園一紀		〒243-0018 神奈川県厚木市中町4-16-19 (電話) 046-223-1441																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人横浜YMCA		平成5年9月6日		理事長 工藤 誠一		〒244-0816 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町769-24 (電話) 045-864-4990																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
教育・社会福祉	教育社会福祉専門課程	こども総合科				平成25年文部省 告示3号	—																		
学科の目的	平和で公正な社会の担い手となるために、福祉施設や企業との連携により整えた授業や実習を通して、実務に関する専門的かつ実践的な知識・技術の習得し、国家資格を有した人材を養成する。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	3年 屋間	3,150時間	2,370時間	660時間	990時間	0時間	270時間 <small>単位時間</small>																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
90人		39人	0人	2人	28人	30人																			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席状況、授業態度、試験結果を総合的に評価し、																				
長期休み	■学年始め: 4月1日～4月2日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～翌年1月4日 ■学年末: 3月25日～3月31日			卒業・進級 条件	(進級) 当該学年で修得すべきすべての科目について単位の修得(卒業) 修得すべきすべての科目について単位の修得が認定特別活動における成果が認定																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任により定期的な連絡及び保護者を含めた面談を実施する			課外活動	■課外活動の種類 福祉施設等イベントボランティアなど ■サークル活動: 有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生)(予定) 福祉業界、保育業界、スポーツ業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年3月31日時点の情報)																				
	■就職指導内容 校友会主催就職の実施。履歴書作成サポート、模擬面接の実施。担任による個別支援。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園教諭</td> <td>①</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	幼稚園教諭	①	9人	9人	保育士	①	11人	11人	健康運動実践指導者	③	2人	1人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																				
	幼稚園教諭	①	9人		9人																				
保育士	①	11人	11人																						
健康運動実践指導者	③	2人	1人																						
■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 91%			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■その他 就職活動 1人 (令和 2 年度卒業生に関する 令和3年3月31日 時点の情報)			■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																						
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 0 % 令和3年3月31日時点において、在学者数39名(令和3年3月31日卒業者含む)			■中途退学の本理由 健康上の理由																					
	■中退防止・中退者支援のための取組 出席不良者に対し早期に面談等を実施し、個別の支援を行う。成績不振者に対し個別の学習支援を行う。必要に応じて家庭との連携を図り生活支援を徹底する。																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度、横浜YMCA奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	https://www.yokohamaymca.ac.jp/health/course/fukushi_hoiku/																								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

社会福祉士及び健康運動実践指導者養成校として、また保育士資格、幼稚園教諭2種免許を取得する短期大学との併修を行う学校として、資格取得に必要なカリキュラムとして示されている内容を網羅し、カリキュラムとして編成する。さらに、卒業後、円滑に職業人として職務の遂行ができるよう、指定カリキュラムの範囲はもちろんその周辺知識においても必要に応じて学習に取り入れていく。

さらに職業現場で必要とされる知識・技術については、実際の保育・福祉現場における人材の専門性や、新たに必要となる実務に関する知識・技術について、職業現場との連携を保ちつつ情報収集を図り、教育課程に反映させる。そのために、業界有識者や福祉施設の実務者等により組織され、年間2回実施する教育課程編成委員会での意見交換や、福祉・保育・幼児教育等の現場実習先における教員の研修なども積極的に活用し、学校独自の教育課程を編成するものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務規程に基づき、教育編成は法令の定める基準により校長が編成する。その過程において、社会福祉士、健康運動実践指導者、保育士、幼稚園教諭として必要となる、現状の福祉、保育、幼児教育の現場における専門性の動向や、最新の知識・技術について、校長、教務主任、こども総合科学科長を含めた学校関係者と、業界有識者や福祉施設の実務者により組織された教育課程編成委員会にて意見交換をする。そのなかから職業現場で要請され、且つ職業教育として有効であると校長の判断した内容について、カリキュラムやシラバスの作成、指定カリキュラムの教授法の工夫や改善などに反映させる。学則の変更を要するカリキュラムの変更については理事会にて決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
奥蘭 一紀	YMCA健康福祉専門学校 校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
青木 英幸	YMCA健康福祉専門学校 事務長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
石島 美紀	YMCA健康福祉専門学校 介護福祉科学科	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
島津 淳	桜美林大学健康福祉学群 教授	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	②
中本 宣弘	YMCA健康福祉専門学校 講師 元神奈川	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
姉崎 則雅	社会福祉法人悠々倶楽部 ライフステージ・悠	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
来栖 一郎	社会福祉法人泉心会 高齢者総合支援セン	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
山崎 隆史	社会福祉法人みどり会 みどり保育園 園長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月(書面会議)

第2回 令和3年2月(書面会議)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

保育の現場における障がい児の親支援の重要性について、教育課程編成委員会にて意見がなされたことに基づき、1年次に開講する「児童家庭福祉」、3年次に開講する「保育指導」の授業において、専門職として一人ひとりの子どもの育ちに寄り添うと同時に、そのライフステージごとの親との関係や役割を理解し、支えることのできる思考を身につけられるよう、現任者や当事者によるゲストスピーチやそれぞれの授業内での演習時間の拡大を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ソーシャルワークは特定の目的に基づいた体系的な援助活動であり、加齢、障害、貧困、親の不存在等によって、本来あるべき人間らしい、子どもらしい生活を送ることのできない、福祉サービスを受容できない他者のために、高い倫理性を保持しながら専門的知識と技術に基づき、一定の目的のもとに自己を用いていく実践活動である。こうした実践的専門性を身につけ、自己を援助的に用いることができるためには、特別な教育・訓練により基礎的な知識や技術、心構えを学ぶことが必要である。これらの実習に臨む学生は、学内での講義と演習により、社会福祉士、保育士、幼稚園教諭に求められる専門的な知識と技術、専門的実践援助職としての倫理観を身につけつつ、修得した知識をもとに現場に鍛錬した実習指導者の指導の下、実践、検証、評価を繰り返し、実践力を身につける。また、実習を通して自己課題を発見し修正することも課題としており、職業現場での実習を不可欠な学習と位置付けている。

実習は福祉施設等と協定を結び、必要な日数、時数、学習内容が行われるよう実習環境を整備し、施設及び学校当事者は連携を取りながら進めていく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生は厚生労働省の認可を受けた福祉施設等において、実習承諾書(協定書)の内容に基づき、実習指導要件を持つ担当施設職員により指導、援助を受けて実習を行う。教員は実習先を定期的に巡回し、施設担当職員より報告を受け、可能な範囲での監督・助言を行い、学生が施設において適切な実習が行えるように指導する。

教員は各実習先より報告される日常業務の遂行状況と実習評価、及び学生の自己評価とレポートの内容等を総合的に判断し、学習成果として評価する。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習	相談援助の意義について理解し、社会福祉士として求められる資質、技能と倫理、自己に求められる課題把握など、相談援助を行う上で必要となる総合的能力の習得をめざし、実習機関・施設において、学内での講義・演習をふまえ、実習先指導者の助言・指導にもとづいて実習に取り組む。	地域活動ホーム連、みどり園、白根学園光が丘、第二空とぶくら社、くず葉学園、丹沢レジデンシャルホーム、藤の実学園、潤生園、シャローム、金井原苑、道志会老人ホーム、愛名やまゆり園、深見大和地域包括支援センター、みなみ風 合計14施設
障害者スポーツ指導実習	アクアプログラム指導を通して、直接、知的障害者とかかわりながら障害者へのスポーツ指導の展開方法及び指導方法など、障害者スポーツの実践を学ぶ。40名の成人の知的障害者を対象とし、マンツーマンで対応する。対象者との十分なコミュニケーションのもと、プール内での指導が行えるようになることを目標とする。	カビーナ貴志園、パステルファームワーキングセンター、綾瀬ホーム、白根工房、井泉憩の家 等 合計7施設
保育実習Ⅰ(一)	学内での学びを基礎として、保育所の機能、役割の理解、子どもの理解、保育者についての理解を目的として学外で実習する。保育士の働き方、子どもとのかかわり方や関係の持ち方、子ども理解を現場において学ぶことにより、保育士として働くことの意義、子どもの最善の利益を保障する取り組みを体得する。日々の課題を明確にしなが、観察実習、参加実習、日誌への記録及び考察を行う。	依知保育園、白百合幼児園、おひさまっこ保育園、比々多保育園、YMCAオベリン保育園、YMCAあつぎ保育園ホサナ、翼咲保育園、横浜文化保育園、合計8施設
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。家庭と地域の生活実態にふれ、子育てをするために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持つことを目的とする。	依知保育園、白百合幼児園、おひさまっこ保育園、比々多保育園、YMCAオベリン保育園、YMCAあつぎ保育園ホサナ、翼咲保育園、横浜文化保育園、合計8施設
教育実習1	習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、総合的に認識を深め、幼児教育にかかわる理論と実践を統合していくことを目的として、見学・観察・参加実習を主とした実習を行う。	久里浜幼稚園、東原幼稚園、厚木さくら幼稚園、厚木田園幼稚園、長福寺幼稚園、海老名幼稚園、清川幼稚園、楠幼稚園、平和学園幼稚園等 合計12施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識・技術、その教授方法について、また多様化する学生への指導などに対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会を持つ。

専門科目は日進月歩で変化、進化している現代では、常に研修等を通して新しい情報を収集し、職業現場をめざす学生に、時事に沿った適切な授業内容を提供することが必要である。実際に職業現場において求められる人物像を正しく理解するために現場を実際に訪問し、生きた情報を指導者が得る機会を持ち、授業の改善に役立てるものとする。

また、自らテーマを持ち、研究をすることにより、疑問や関心事を明らかにすることは教育現場を預かる教員として当然の態度であり、それを学校として支援することは理念を掲げる専門教育を行っている学校として極めて重要である。特に、現場の声が学べる現場担当者や有識者の講演会等が含まれる学会や、社会福祉士養成校協会等が実施する研修などは、指導者同士の情報交換等により授業力向上につながることから、積極的な参加を勧める。

近年特に多様化し、学生のあいだにも学力に大きな開きが見られるようになった。教員の指導力には今後ますます柔軟性が求められることから、専門分野に限らない、様々な対象者への講義・指導をも学校として研修と位置付け、学生対応や授業展開の改善に役立てるものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国社会福祉教育セミナー2020」(連携企業名 日本ソーシャルワーク教育学校連盟)

期間 2020年11月15日 13:30～17:30 対象 大学等教職員

内容 講演「地域共生社会に求められるソーシャルワーク」シンポジウム「地域共生社会とソーシャルワーク～ソーシャルワーク専門職として依拠すべき倫理・価値規範と政策理念としての『地域共生社会』の関係をどのように捉えるか～」

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「横浜YMCAカレッジグループ2020年度 教職員合同研修会」(連携企業名 横浜YMCAカレッジグループ)

期間 2021年2月12日(金) 17:30～18:30 対象 横浜YMCAカレッジグループ専門学校教職員

内容 Google Meetを活用したオンライン授業の方法及び課題

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国社会福祉教育セミナー2021」(連携企業名 日本ソーシャルワーク教育学校連盟)

期間 2021年11月27日～28日 対象 大学等教職員

内容 未定

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修 「障害を理解する」(連携企業名 障害者支援施設 くず葉学園)

期間 2021年10月13日、20日 対象 YMCA健康福祉専門学校教職員

内容 障害児者の尊厳を守り、その自立生活に対する支援のあり方とその教授法

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育を目的とした、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、成果を検証し、必要な改善を行うことにより、学生がより高い水準の職業教育を享受できるような学校運営の発展を目指していく。そのために学生や卒業生、福祉・保育施設関係者の意見を積極的に汲みとり、反映させていくとともに、活動状況を分かりやすく的確に示す必要がある。

そこで、学校の教育活動について、教職員と、卒業生や福祉・保育施設関係者による学校関係者評価委員会を組織し、本校の理念・教育目標に照らして実施する自己評価の結果、学校の把握する課題や改善計画等に対して、評価・公表することにより、組織的・継続的な改善を図る。これにより学校と職業現場である福祉施設との相互理解を深め、連携の促進を図り、地域に開かれた学校づくりをすすめていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か) ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。就職率の向上が図られているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	記載なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

福祉施設より参画した卒業生の委員より、「人に聞くことが苦手」「人との関わりが苦手」「指示待ちの姿勢」などの兆候が見られる新入職員が増えていることが指摘された。学生時に携わった、年間を通して子どもたちと関わるボランティアで経験したこと、身についたことは実践的に役に立ったとの意見もあった。ボランティア活動は実際に施設や社会での福祉・保育施設職員の働きや役割を理解できる学びの場と捉え、積極的な参加を促していく。今後はカリキュラムに編成する方法や、施設側との協働により、施設実習と連動させた継続的に参加できる仕組みづくり(通年実習)など、人材育成の場として発展させていくよう検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 奈緒子	愛川町立田代保育園	平成30年4月1日～令和2年3月31日	卒業生
鈴木 真	株式会社まこじろう福祉事務所 執行取締役	平成30年4月1日～令和2年3月31日	卒業生
桜井 太郎	社会福祉法人秀峰会 特別養護老人ホーム	平成30年4月1日～令和2年3月31日	卒業生
小島 雄登	NPO法人日本ブラインドサッカー協会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yokohamaymca.ac.jp/health/about/information/>

公表時期: 令和3年6月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校理念・教育目標、具体的な教育活動、学校評価に関する委員会の活用状況などを、学校ホームページを通じて情報提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育・人材養成の目標及び特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史 ・その他諸活動
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に対する受入れ方針及び入学者数、定員 ・カリキュラム、授業方法及び年間授業計画 ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・進級、卒業の要件及び評価基準 ・卒業生数、卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数 ・教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・実習、実技等の取組状況 ・就職支援等への取組等
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況 ・課外活動
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ・活用のできる経済的支援措置の内容等(奨学金等の案内)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・正味財産増減計画書 ・貸借対照表 ・財産目録
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yokohamaymca.ac.jp/health/about/information/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			英会話	基礎的英語の復習から、実用英語の実践までを、くり返し声に出すことに重点を置いて学習する。	1 通	45		○			○			○	
○			教職概論	家庭や地域の教育力の低下が叫ばれる中で多様化した教師の役割を理解する。子どもの健全な発達を保証することが難しい現代の教師像について考察する。	1 後	30		○			○			○	
○			生涯スポーツ	スポーツの概念、社会生活の変化とスポーツ、スポーツ参加の現状と課題について考察し、スポーツ活動を自主的・主体的に実践していく資質を養う。	1 前	30		○			○			○	
○			幼児と音楽表現	現代の幼児・児童教育者に求められる音楽基礎能力を習得する第一歩として、初歩的なピアノ演奏法、及び声楽を学ぶ。	1 前	30			○		○			○	
○			情報処理 I	PCを使い、実用的な書類作成からWordの操作を、またExcelのグラフ、計算、データベースを幅広く経験し、基本操作や応用法について紹介する。	1 通	45		○			○			○	
○			保育内容総論	子どもを健やかに育てる営みである保育を、保育所と幼稚園の保育の総合性を大切に、保育内容を総論的にとらえる。	1 前	30		○			○			○	
○			社会的養護 I	1. 社会的養護の意義と基本理念・原理について理解する。 2. 社会的養護における家庭的養護、施設養護の概念について理解する。 3. 施設養護の実際とその運営管理について理解する。	1 前	30		○			○			○	
○			教育課程総論	主として幼稚園教育の基本的な原理、幼稚園教育要領における各領域にねらい及び内容にふれながら、具体的な指導・援助のあり方について学ぶ。	1 後	30		○			○			○	
○			健康科学	健康・体力と運動、生活におけるトレーニング、健康や体力に関する知識や関心を高め、スポーツ活動を自主的・主体的に実践していく資質を養う。	1 後	30		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			健康(指導法)	乳幼児の遊び、運動、食事や排せつなどの基本的生活習慣の特徴や指導の留意点について実践例を挙げながら解説する。	1後	15		○			○			○	
○			造形表現(指導法)	幼児の絵画・造形指導に必要な基礎知識・表現技術を習得する。殊に幼児の発達段階に応じた実技指導が行える能力を養成する。	1通	45		○			○			○	
○			音楽表現(指導法)	器楽(ピアノ)、歌唱、ソルフェージュ、楽典、手遊びなど、保育者に求められる基礎的な音楽表現能力を習得する第一歩として初歩的なピアノ演奏と音楽を中心に学ぶ。	1前	30			○		○			○	
○			言葉(指導法)	人間が言葉を獲得する上での基礎となる事柄を学ぶ。児童文化財としての絵本、ストーリーテリングについて学び、ディスカッションを通して作品についての考えを深める。	1前	15		○			○			○	
○			教育方法論	「援助としての保育」を具体的・実践的に行う方法、その思想をJマックビガーハントの理論を基軸に、幼児教育の考え方を学ぶ。	1前	30		○			○			○	
○			幼児と言葉	領域「言葉」のねらいと内容を理解し、子どもの発達段階に応じた言語指導について学びを深めていく。保育者としての援助のあり方を考察するとともに、児童文化財を通して言葉の指導の実践力を養う。	1後	30		○			○			○	
○			キャンプ	キャンプの技術を身につけ指導法を学び、リーダーとしての資質向上を図る。グループ内での自分の役割に気づき、周囲の動きを見ながら行動することを大切にする。	1前	30				○		○		○	
○			ホームルーム	学級や学校における諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理・自主的な活動、学校における多様な集団の生活の向上などを促す。	1通	60		○			○			○	
○			基礎ゼミナール	自分の考えを説明すること、他者の考えを聴くこと、議論することから、対人援助職に求められる観察能力、感性を高めるとともにそれを文章化し伝える能力を習得する。	1通	60		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		人体の構造と機能及び疾病	人の成長・発達、心身機能と身体構造の概要。ICFの基本的考え方、健康の捉え方。疾病と障害の概要。リハビリテーションの概要。基本的介護技術の習得。	1通	60		○			○			○	
	○		心理学理論と心理的支援	人間行動に対して我々が持つ素朴な疑問を出発点として、心理学の領域の知見を概説する。また、人間の行動について、科学的根拠に基づき客観的に洞察する視点を養う。	1前	30		○			○			○	
	○		社会理論と社会システム	自我の社会的形成や組織化された社会など、広域な社会学の考察の中から、家族、福祉社会、若年労働者問題などを題材とし、常識的な理解との違いを社会的に考察する。	1前	30		○			○			○	
	○		相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワークの定義、理念、価値・倫理について、実践の現状、社会問題等と関連させた講義を行う。ソーシャルワークの形成・発展史を学び、価値と知識の源流を探求する。	1通	60		○			○			○	
	○		現代社会と福祉	現代におけるライフスタイルの変化を、家族、個人、そして地域社会との関係の中で考え、生活支援と福祉の基本的な体系を学ぶ。	1通	60		○			○			○	
	○		相談援助演習	援助活動の原則である人権尊重、権利擁護、自立支援など、対人サービスの基本となるコミュニケーションや円滑な人間関係形成の方法を学び実践的な力量をつける。	1通	60			○		○			○	
	○		相談援助実習指導	実習に向け、講義、施設見学、グループ討議、自己学習により基本的事項を学び、実習前に必要な準備態勢を整える。また、考察を深めるためにレポートを作成する。	1通	60			○		○			○	
	○		相談援助実習	利用者の年齢等の状況に応じた、ニーズ・発達課題などを見だし支援を学ぶ。利用者積極的にコミュニケーションをとり、相談援助業務を学び、そのあり方を理解する。	1後	180				○	○			○	○
	○		サービス演習	「サービス」の特性や意義、提供する上での難しさ等について学習する。その上で、サービス提供に必要な接遇知識、接遇技能を実習、演習を取り入れた授業により体得する。	1後	30			○		○			○	
合計					科目			単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		水泳実技Ⅰ	水の特性、危険性を知る。4泳法の標準的な技術・理論を身につけられるように行う。また指導演習の中でひとりひとりに指導者の立場を経験する。	1通	60				○	○			○		
	○		エアロビックダンス	実技を中心に、必要な座学も行う。ドリルや全員の前での発表を行い、アウトプットを通じて、知識や技術の定着をはかる。	1通	60				○	○				○	
	○		解剖生理学	現場で役立つように、数多くのスポーツの場面、リハビリテーションの場面に沿って人体の機能、構造について学ぶ。	1通	60			○			○				○
	○		運動指導の心理学	運動指導の分野で心理学の領域に関わる事象は多い。特に動機づけはやる気の水準に大きな影響を与える。この理論及び実践的手法に着目して展開していく。	1前	30			○			○				○
	○		障害者福祉論	障害者福祉の基礎知識を学び、障害者福祉の時代性を知る。	1後	30			○			○				○
	○		運動生理学	生体における基礎的な生理学的知識を、生体内部のメカニズムや具体的なデータを提示し概説する。	1後	60			○			○				○
	○		現代社会と福祉	現代におけるライフスタイルの変化を、家族、個人、そして地域社会との関係の中で考え、生活支援と福祉の基本的な体系を学ぶ。	1通	60			○			○				○
	○		発育発達論	児童・成人・高齢者のスポーツを指導していく上で大切な人間の発育・発達特性を学ぶ。現代の発育・発達・老化状況を理解し、運動・スポーツの指導を学ぶ。	1後	30			○			○				○
	○		コーチング論	コーチ、指導者に求められる能力とは何か。さらにコーチングの方法を客観性の高い知見によって検証していく。	1後	30			○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		トレーニング理論	運動による身体能力の法則性を明らかにし、一般人からアスリートまでのトレーニングを理解する。	1前	30	○			○			○		
	○		社会体育概論	地域における体育・スポーツ振興の目的や仕組みについて、事例などを交えながら概観する。	1前	30	○			○				○	
	○		リハビリテーションスポーツ	障害者スポーツをビデオで鑑賞し、実際に車いす操作から車いすテニス、視覚障害ソフトボール、シッティングバレーボール等の実技を行う。	1後	30			○	○				○	
	○		リハビリテーション論	リハビリテーションとは何かを地域社会と障害者、リハビリテーションスポーツ等多方面から学習する。	1後	30	○			○				○	
	○		障害者スポーツ指導実習	知的障害者を対象にマンツーマン対応し、障害者スポーツ指導を学ぶ。利用者の迎え入れからトイレ・更衣・シャワー介助後プールにて指導担当に従い動作指示を行う。	1通	120			○	○				○	○
	○		スキーキャンプ	指導者との人間的な関わりの中から「安全」と「信頼」を学び、指導者に求められる資質を身につけ、自然の中で生かされている事の意味、大切さを知る。	1後	30			○		○	○			
		○	海外研修	海外諸国を訪ね、福祉の現状や課題について、体験を交えて研修する。また、異文化や多文化の共生も理解する。現地の人々と触れ合う機会を多く設ける。	1後	90			○		○	○			
○			教育原理	現代の教育自象を具体的に学ぶ。日本の教育目的・目標をもとに教育課程がどのように作られているか実践的に学ぶ。現代の教育制度を形成した思想や制度について理解する。	2後	30	○			○					○
○			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉の法体系や具体的なサービス体系の現状及び児童（子ども）の権利保障の考え方の変遷等を学び、現在、児童福祉の課題となっている子ども虐待や子育て不安の問題について、原因や対応策を考える。その過程で児童福祉から子ども・家庭福祉への展開の必然性と新たな視点からの児童福祉の専門性について理解を深める。	2後	30	○			○					○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			子どもの保健	成長・発達と共に変化する心身の発達を理解する。視聴覚教材によって、子どもの健全な育成を理解する。	2後	30		○			○			○		
○			子どもの食と栄養	栄養学の基礎と体内の代謝について学び、小児の発達について理解する力をつける。体と心の両方の育成に関与する「食」を実践の場で教育できる基礎を学ぶ。	2通	45		○			○				○	
○			教育相談	カウンセリングの基本的な理論や技法を学び、クライアントを理解するための視点を身につける。	2前	30		○			○				○	
○			日本国憲法	基本的人権について、特に自由権と社会権を中心に講義を行う。さらに統治機構について、国家・内閣・裁判所を中心に講義を行う。	2前	30		○			○				○	
○			人間関係(指導法)	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、人との豊かななかかわりを育てる保育者としての役割と視点に関する諸理論と実践的課題を学習する。	2後	15		○			○				○	
○			幼児と健康	幼児の体力や運動能力の測定と評価に関する研究は、体育科学・体力学などの研究領域で50年以上にわたり発展してきた。その数多い知見を具体的に紹介し幼児の体力の特徴を明らかにする。また、それらの知識を一般成人との違いと比較することなどにより運動実践の場で有用な知識を獲得できるような内容を概説する。	2前	15		○			○				○	
○			乳幼児心理学	乳幼児心理学分野の研究資料に基づいて、知覚・運動・愛着・模倣・認知・情緒・言語・社会性などの心身の諸機能の発達について学ぶ。	2前	15		○			○				○	
○			音楽表現技術	この授業では、保育者に求められる基礎的な音楽表現技術を習得する第一歩として、楽典の基礎、及び初歩的なピアノ演奏法と歌唱法を身に付けることを目的とします。	2前	30			○		○					○
○			保育音楽	保育者に必要な音楽表現能力の基礎となるピアノ、声楽、音楽理論を学ぶ。ピアノは主にコードネームによる弾き歌い。その他、リトミック、手遊びなどグループワークによる実践によって身につける。	2後	30			○		○					○
合計																
				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			劇あそび(指導法)	表現運動の楽しさである「踊る・造る・見る」活動。友達と一緒に踊る楽しさ、工夫を凝らして造る楽しさ、人の表現を見て共感したり感動できる楽しさを学ぶ。	2後	15	○			○			○	
○			障害児保育	障害児保育を支える理念や障害のある子どもを取り巻く保育の現状について理解した上で、個に応じた適切な関わりと具体的な配慮について考える。	2後	30	○			○				○
○			幼児と造形表現	1年次の造形表現からの発展・展開とする。	2後	30	○			○				○
○			社会的養護Ⅱ	児童養護施設における児童養護の日々の営みの具体的行為の概略と現在の課題を学ぶ。また、児童の特殊性を踏まえながらコミュニケーションに焦点を当てながら福祉の対人援助としての基本的態度を学ぶ。できるだけロールプレイやグループワーク等を通して他人事の問題ではなく私の事の問題でもある視点で学べることを試みる。主体的に学び、感性を磨く授業なので前日は、よく寝て授業に臨んで下さい。 「Don't think. Feel! And thinking」	2後	15	○			○				○
○			保育原理	保育の歴史、意義、制度を理解し、幼稚園、保育所、およびその一元化に向けての情勢、及び子育ての現状を把握し、子どもが健やかに育つには何が重要かを学ぶ。	2前	30	○			○				○
○			教育心理学	学校や幼稚園で起こっている様々な問題について概観する。また、教育場面でのより実践的な問題について考える。	2後	15	○			○				○
○			幼児への特別な支援	保育現場を中心に関わる障害の知識の修得と理解を深める。実践に向けた基盤を作っていく。	2後	30	○			○				○
○			子ども家庭支援の心理学	乳幼児心理学の研究資料に基づいて、知覚・運動・愛着・模倣・認知・情緒・言語・社会性などの心理の諸機能の発達について学ぶ。	2後	30	○			○				○
○			幼児と人間関係	人間関係における基礎知識を学び、こどもが健全に育つための人間関係のあり方と支援者としてのこどもとのかかわり方を考える。	2前	30	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			幼児と環境	幼児教育の基本（日常生活で出会うものに関心を持ち、関わり、馴染み、理解する）及び幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」の観点から、自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然との関わりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる。様々な事象の観察を通して、観察力・集中力を修得する。	2 後	30		○			○			○	
○			幼児の心理学	家庭や学校で起こっている様々な問題について概観する。また、教育場面でのより実践的な問題について考える。	2 後	30		○			○			○	
○			ホームルーム	学級や学校における諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理・自主的な活動、学校における多様な集団の生活の向上などを促す。	2 通	60		○			○			○	
		○	保育実習事前事後指導(施設)	保育実習(施設)の意義・目的・内容といった保育実習(施設)の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習(保育所以外)についての授業を行う。	2 前	15		○			○			○	
		○	保育実習事前事後指導(施設)	・児童福祉施設の社会的役割、種類、内容などについての事前学習 ・各自設定した、児童福祉施設における実習目標、課題、学習計画にそって、施設実習にむけた準備	2 後	15		○			○			○	
		○	保育実習Ⅰ(施設)	「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設(保育所以外)で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める	2 前	90				○	○	○		○	○
		○	教育実習事前事後指導	保育所保育の役割を理解し、保育の理論と技能を基礎として、実践的な力量を備える。	2 前	15		○			○			○	
		○	教育実習1	習得した幼児教育に関する知識技能を活用しながら体験的に、総合的に知識を深め、幼児教育にかかわる理論と実践を統合していく。	2 前	90				○	○			○	○
		○	教育実習2	習得した幼児教育に関する知識技能を活用しながら体験的に、総合的に知識を深め、幼児教育にかかわる理論と実践を統合していく。	2 後	90				○	○			○	○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	海外研修	海外諸国を訪ね、福祉の現状や課題について、体験を交えて研修する。また、異文化や多文化の共生も理解する。現地の人々と触れ合う機会を多く設ける。	2後	90			○		○	○			
		○	選択スキーキャンプ	指導者との人間的な関わりの中から「安全」と「信頼」を学び、指導者に求められる資質を身につけ、自然の中で生かされている事の意味、大切さを知る。	2後	30			○		○	○			
	○		相談援助の理論と方法	相談援助の各プロセスにおいて、ソーシャルワーカーが課題にすべき重点や留意点、基本的な技法について学ぶ。	2通	60			○		○	○			
	○		高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者の生活実態と保健福祉ニーズ、介護の概念・技法、介護予防等の課題についての理解を深める。介護保険制度の内容、制度に係わる組織と専門職等の基本的知識を学ぶ。	2通	60			○		○	○			
	○		地域福祉の理論と方法	地域福祉の理念と内容、主体形成、地域における組織・団体・専門職との連携などについての基本的な事項を学ぶことにより、地域福祉とは何かについての理解を深める。	2通	60			○		○		○		
	○		相談援助実習指導	実習課題について施設からの評価表と実習記録をもとに事後指導を行い、目標達成度・課題の整理、スーパービジョンによるふり返りを行う。	2後	30			○		○	○			
	○		社会保障	「子どもの権利の擁護」の観点から具体的な問題を取り上げることで、日本および世界の現状はどのようなものかを理解する。	2後	30			○		○		○		
	○		相談援助演習	様々な社会的問題について、事例を用いてニーズを把握し、アセスメント、プログラミング、評価をすることによって、集団援助技術と地域援助技術を学ぶ。	2通	60			○		○		○		
	○		障害者スポーツ実習	自閉症を中心とした発達・知的障害児に対し、体操、水泳指導を実施する。なお、指導は実践指導者であるプログラムリーダーと教科担当者が分担して実施する。	2通	##					○	○		○	○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		健康管理概論	生涯を通して健康で活力ある生活を送るための、体育やスポーツの担う重要な役割を、具体的な事例（生活習慣病、精神疾患に対する運動の効果など）を通して紹介し解説する。	2後	60		○			○			○		
	○		トレーニング理論Ⅱ	運動による身体能力の法則性を明らかにし、一般人からアスリートまでのトレーニングを理解する。	2前	30		○			○				○	
	○		体力測定と評価	体力測定の目的、測定法、評価法および運動処方について理解する。また、体力基礎統計を理解すると共にExcelを使ってデータ整理などを理解する。	2後	30		○			○				○	
	○		障害者スポーツ指導実習	知的障害者を対象にマンツーマン対応し、障害者スポーツ指導を学ぶ。利用者の迎え入れからトイレ・更衣・シャワー介助後プールにて指導担当に従い動作指示を行う。	2通	120					○	○			○	○
	○		健康運動実践基礎	健康運動実践指導者資格取得のための基礎学力の向上を目的に、筆記試験科目全般を学習する。	2前	30		○			○				○	
	○		栄養学（食生活と栄養）	基礎代謝、活動時のエネルギー代謝と食物摂取によるエネルギー量の関係から、食生活を通して心とからだの健康づくりを学ぶ。	2後	30		○			○				○	
	○		救急法・テーピング	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージ、AEDを用いた除細動、日常生活での事故防止、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送などの知識と技術を習得する。	2後	15					○				○	
	○		水泳実技Ⅱ	トレーニングの要素も含め、より発展的な技術・理論を身につける。指導演習では環境、対象を制限し、それに合った指導を考え実践する。	2通	60					○	○				○
	○		運動方法論	身体の構造と仕組みおよび運動と身体の仕組みを理解し、健康・体力を高めるための知識と方法論について理解する。	2前	30		○			○				○	
合計					科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		スポーツ経営学	スポーツ組織の経営のために必要な考え方や基本的知識を体育・スポーツ経営学をもとに理解する。営利・非営利にとらわれず様々な事例を通じて、幅広いスポーツ経営の実践を概観する。	2通	60		○			○			○		
	○		バイオメカニクス	運動はどのようなときに上手にできるのか、またなぜ難しさが生ずるのかを学び、その調査・分析について、具体的なスポーツ動作や姿勢、介護、作業を挙げながらみていく。	2後	30		○			○				○	
	○		相談援助演習	様々な社会的問題について、事例を用いてニーズを把握し、アセスメント、プログラミング、評価をすることによって、集団援助技術と地域援助技術を学ぶ。	2通	60			○			○			○	
	○		スポーツ医学	スポーツ指導者に必要なスポーツ現場での主な傷害に関する処置、リハビリについて事例を挙げて検討し、スポーツ医学に関する知識を高める。	2後	30		○			○				○	
	○		海洋キャンプ	海洋キャンプ特有のスキル・知識を体験し、リーダーとしての資質向上を図る。グループ内での自分の役割に気づき、周囲の動きを見ながら行動することを大切にする。	2前	30				○		○		○		
○			子どもの保健I	子どもに起こりやすい疾病・事故について理解する。疾病・事故予防の対策及び方法を理解し、保育者としての役割がわかる。	3前	30		○			○				○	
○			環境(指導法)	子どもの生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験、社会体験などの具体的生活体験のなかでも特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を学ぶ。	3前	15		○			○				○	
○			保育の心理学	発達心理学の理論と方法を学び、人間理解を深める。生涯発達の視点から、各発達段階における身体的・心理的特徴を捉える。	3前	30		○			○				○	
○			保育・教職員実践演習	保育者としての責任感・使命感を再認識し、就業に際して求められる社会性や対人関係能力の向上、並びに、子ども理解・クラス運営・保育内容の指導力の向上を目指す。	3前	45		○			○				○	
合計					科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			子どもの健康と安全	子どもの健康状態の観察、身体測定法、生理機能の測定法、精神・運動発達機能の評価と記録の方法を学ぶ。また、乳幼児の日常生活上の保育環境と養護の実際、異常時の看護・怪我や事故時の応急処置・心肺蘇生法の演習を行う。	3 前	30		○			○		○		
○			ホームルーム	学級や学校における諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理・自主的な活動、学校における多様な集団の生活の向上などを促す。	3 通	60		○			○		○		
○			ゼミナール	テーマを選択し、そのテーマについて、資料を収集・整理し、論文作成を行う。さらに論文発表の準備を行う。	3 通	60		○			○		○		
○			レクリエーション理論	レクリエーション活動の社会的意義、及び活動領域（地域社会、学校教育、職場、社会福祉分野）について学習する。	3 後	30		○			○		○		
○			レクリエーション実技	レクリエーション支援の実践により、さまざまな対象者へのコミュニケーション方法、対象者のニーズや能力に合わせた計画、具体的援助方法・危機管理について学ぶ。	3 後	60				○	○		○		
○			キリスト教倫理	旧約聖書と、新約聖書を通して、人間本来の神のかたちとしての生き方を学ぶ。	3 通	60		○			○		○		
○			子育て支援	保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶことを目的とする。	3 前	15		○			○		○		
○			子ども支援論	家族の意味・役割・機能、家族をとりまく諸状況を福祉（家族の幸せ）の面からとらえ、家族支援のための基本的な姿勢、社会資源等諸サービスとその具体的展開、関係機関との連携等について資料を活用し、グループワーク学習を取り入れる。	3 前	30		○			○		○		
○			乳児保育	子どもの成長に寄り添う保育者の在り方について、理論と自らの体験を通して学ぶ。子どもの発達に合った遊び方、おもちゃ選びにも触れ、遊びの世界の知識を広げる。	3 前	45		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育音楽②	ピアノ、歌唱、身体活動、手あそび、指導案づくりなど、保育者として、ふさわしい音楽に対する興味関心を高め、さらに必要な知識や技術、創造力等を深める。	3 前	30		○			○			○	
		○	保育実習Ⅰ (保育)	・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。	3 前	90				○		○		○	○
		○	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士に必要な能力、技術を修得する。家庭と地域の生活実態に触れ、福祉の視点を理解する。	3 前	90				○		○		○	○
		○	保育実習Ⅲ	施設をとりまく家庭と地域の生活実態に触れ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深め、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	3 前	90				○		○	○		○
		○	保育実習事前 事後指導(保 育)	保育所保育の役割を理解し、保育の理論と技能を基礎として、実践的な力量を備える。	3 前	15		○				○		○	
		○	選択スキー キャンプ	指導者との人間的な関わりの中から「安全」と「信頼」を学び、指導者に求められる資質を身につけ、自然の中で生かされている事の意味、大切さを知る。	3 後	30				○		○	○		
		○	海外研修	海外諸国を訪ね、福祉の現状や課題について、体験を交えて研修する。また、異文化や多文化の共生も理解する。現地の人々と触れ合う機会を多く設ける。	3 後	90				○		○	○		
		○	幼児体育指導 実習	子どもの発達段階に適した運動・スポーツ指導の考え方や指導者の役割を理解し、子どもを対象に運動あそびのプログラムを立案し、実際に子どもの運動指導を行う。	3 通	180			○		○		○		
○			社会保障	社会保障の理論的側面を理解し、社会保障制度の国民生活における役割について、その歴史的過程から概観するとともに、現行制度の特徴や課題などについて理解する。	3 前	30		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保健医療サービス	保健医療サービスの概要、専門職の役割と実際、連携の在り方等について取り上げ、医療的ケアや地域在宅生活支援への今日的課題について考える。	3後	30		○			○		○		
○			社会調査の基礎	現代社会の多様な側面を把握し、統計的かつ客観的な認識に到達するための社会調査の概要を理解する。社会調査の体験から報告書にまとめるまでの一連の行為を学ぶ。	3後	30		○			○		○		
○			相談援助の理論と方法	障害者の地域生活・就労支援の事例から、必要な支援技法の理解を深める。ケアカンファレンスの意義と方法を理解し、支援についてその意義と課題を理解する。	3通	60			○		○		○		
○			福祉行財政と福祉計画	福祉行財政の実施主体（国、都道府県、市町村）の役割と実施主体との関係、その組織、体制、実施主体で働く職員（専門職）の役割を理解する。	3前	30		○			○		○		
○			福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織や団体について学ぶ。福祉サービスの経営と管理運営の方法について学ぶ。	3後	30		○			○		○		
○			低所得者に対する支援と生活支援制度	貧困、低所得問題の現状について学ぶ。生活保護制度の役割、意義について学ぶ。生活保護制度の内容について、具体的な知識を身につける。	3前	30		○			○		○		
○			就労支援サービス	就労援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。就労支援分野との連携について理解する。	3前	15		○			○		○		
○			権利擁護と成年後見制度	成年後見制度の仕組み、制度運用の実際や課題を学ぶ。自立支援事業の仕組み、権利擁護の必要性と専門職の必要性と役割、諸機関との連携の必要性と方法を学ぶ。	3前	30		○			○		○		
○			更生保護制度	保護観察および更生緊急保護の制度を中心に説明する。心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った触法精神障害者に対する医療観察制度について概説を行う。	3前	15		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		相談援助演習	代表的な実践モデルやアプローチを学びとることができる事例を題材に、グループ討議やロールプレイ等を通して、相談援助の技法を実践的に学ぶ。	3前	30			○		○		○			
	○		人間と死	死を見つめることから、かけがえのない命の意味を問い直し、互いの命を尊重し合える社会の基盤づくりを考える。	3前	30			○			○				
	○		健康運動実践対策	健康運動実践指導者試験の為の実践的対策を行う。	3前	60			○			○			○	
	○		レジスタンス運動	単に筋力だけを向上させるのではなく、種目特性に応じたさまざまな手段での負荷トレーニングを学び、理解する。	3後	30					○	○				○
	○		医学一般	臨床医学の概観。人体の構造と機能。現代社会と疾病。生活習慣病。老化と疾病。公衆衛生の現状。保健医療対策の現状。	3後	30			○			○				○
	○		スポーツ行政論	公的や民間のスポーツ関連組織における、スポーツ政策を学び、日本におけるスポーツ行政の現代的課題を考える。	3後	15			○			○				○
	○		現代スポーツ論	社会で話題・問題となっている事例を取り上げ、その背景と今後の課題について理解を深める。	3前	30			○			○				○
	○		障害者スポーツ指導実習	知的障害者を対象にマンツーマン対応し、障害者スポーツ指導を学ぶ。利用者の迎え入れからトイレ・更衣・シャワー介助後プールにて指導担当に従い動作指示を行う。	3通	##					○		○			○
	○		アクアエクササイズ	水の特性や、水中での動きの表現力や使い方を理解する。実際にアクアプログラムを体験し、指導のシュミレーションを行う。	3通	60						○	○			○
合計					科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども総合科) 令和2年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		健康教育概論	健康行動における諸理論の学習、健康行動を規定する要因についての理解、健康教育プログラムの構成の仕方、プログラムの効果評価について学習する。	3後	30	○			○			○	
	○		健康心理学	健康の維持・増進、疾病予防、慢性疾患と症状コントロール、各種ヘルスサービスにおける健康心理学的なアプローチ方法を学ぶ。	3前	30	○			○			○	
合計						137科目	6,000単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。